

学年の実践

1 年 道徳 科

1 授業の見方・考え方を達成するための手立てについて

(1) 気付く学び

- わかりやすい部分はあった。
- 板書は必要なかったと思う。板書は大事なことだけでいいと思う。
- 「無人スタンド」について理解することが“気づく学び”ではないと思う。主人公の「注意しなければ」という、本時の課題にもかいてある「公德心」に気づかせるべきだった。



(2) 深化する学び

- 自分の立場をはっきりさせたのいいと思う。
- 「心の葛藤」が足りなかった。道徳では、この葛藤や迷いが大切だと思う。
- 「注意することが正しい」という話をして、千葉さんの話をすると、迷う生徒がいるのではないかと感じた。



(3) つながる学び

- ロールプレいの発表、とても有効だったと思う。道徳の授業で、何回も取り入れていくうちに、生徒も慣れていき、本音や立場の違いに気づいていけると思う。
- 今回の内容に、本当にロールプレイは必要だったのか。発言ではなく、ロールプレイにする意味を考えたい。
- 授業が進むにつれて、ねらいである「公德心」という価値観がすこしずつれてきた感じがした。家庭の話題から、「公德心」から「家族愛」を考えている生徒がいたように感じた。



2 3学期の研究実践の成果と課題（その授業の見方・考え方に迫れたか）

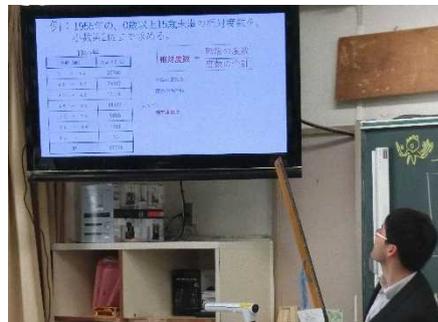
- ICTの活用により、生徒へ伝えたいことが伝わりやすくなっていた。
- 主発問の仕方が大切で、今回は揺さぶり切れていない感じがかった。簡潔にわかりやすくすることも重要だし、その発問について生徒が考える時間も吟味する必要がある。
- 道徳だからでなく、どの教科も同じだと思うが、「ねらい」（今回の道徳だと「価値観」）をしつかりと教師側がもって授業展開できるようにしたい。

学年の実践

1 授業の見方・考え方を達成するための手立てについて

(1) 気付く学び

- バスケットのシュートの話を出して、身近な問題から入っていったことは、土台作りとしてよかった。
- 先生がずっと話をしていたので、生徒が気づいていたか少々疑問に思う。
- 割合の式や値は、大事なことだし、先生側から質問をしたから、生徒が答えるようにさせたい。



(2) 深化する学び

- グループで話し合っている様子から、苦手に思っている生徒が確認しやすい。
- 扱う数字があまりにも大きすぎて、ピンと来ていない生徒がいた。また、計算だけなら個人でも可能だと思うので、グループ活動させる内容を吟味するとよい。
- 授業の最初に、身近な話題から入ることができていたので、この部分も身近な題材を与えられるとよかった。
- どうして「1」になるのかこそ、グループで話し合いさせてもよかった。



(3) つながる学び

- 得られたデータを、考察まで結びつけることはよかった。
- お年寄りは60歳以上など、定義すべきところはきちんと伝えてあげたい。
- 先生が話しすぎていたように思う。グループで話し合いからつなげられるとずっとよくなると思う。



2 3学期の研究実践の成果と課題（その授業の見方・考え方に迫れたか）

- 普段からグループワークを行っている様子が見え、素早く準備や話し合いの態勢ができていた。

- 教師の説明が丁寧であることは大切だが、教師が話しすぎていた部分があり、そのため見方・考え方に生徒が迫りきれなかった感じがかった。今後は教師は極力最低限の話になるように努め、生徒には何を与え、何を考えさせるべきかを、私たち教師は常に求め続けられるようにしたい

